

令和3年度 学校自己評価シート

星野学園小学校

目指す学校像	全人教育による21世紀を担う人づくり			
	1.よく考え、進んで学ぶ子ども	2.広い心を持ち思いやりのある子ども	3.礼儀正しく、あいさつのしっかりできる子ども	4.明るく健康な子ども
本年度の重点目標	番号	1 学習指導力の向上に努め、基礎・基本的な学習内容の確実な定着で、学力の向上を図る。 2 道徳教育の充実、行事や豊かな体験活動を通し、広い心を持ち思いやりのある子どもを育てる。 3 基本的生活習慣の確立、体力向上に積極的に取り組むとともに、明るく健康な子どもを育てる。 4 開かれた学校、信頼される学校づくりの推進。		

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
児童	0名
事務局(教職員)	2名

学校自己評価								学校関係者評価		
年度目標				R3年度評価(令和4年3月31日現在)				実施日 令和4年3月12日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	・基礎学力の習得状況に個人差が見られる。確かな学習習慣確立の為に、教員が作成する教材プリントに加えて、ノートやテキストによる家庭学習を勧めている。5・6年生の算数では習熟度別展開授業を実施している。更に、学力向上に向けて、教科担任による実態に則したテストを実施している。	①基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。	①1～4年生の2人担任制の実施。 ②日々の宿題の提出を促すとともに、きめ細やかな宿題指導を行う。また、自主学習の習慣化を進める。	①国語・算数・理科・社会・英語の単元テストの得点率を70%以上にする。 ②宿題の提出率を100%にする。また、自主学習の習慣が身に付く。	①基礎基本の力は、定着できたが支援の必要な児童がいる。 ②提出状況はよくなってきている。自分で考えて学習する子が増えてきた。	A B	①豊富な練習問題や副教材を継続的に用いるとともに実施する各テストの質を向上させる。 ②家庭での自学自習を促していきたい。	・自学自習を推進する方針は良いと思います。 ・自学自習を重視したことで学力の変化や、基礎力の定着度を見極めてください。 ・自主学習の支援があると良いと思います。 ・iPadを使ったグループ活動の取り組みに感心しました。発表が苦手な子が、自信をもって自分の意見を表現できるようになるとと思います。 ・デジタル端末の使い方が上達しています。家で誕生日を祝うプレゼンテーションを作ってくれて、成長を感じました。 ・デジタル端末の使用に長けてきた反面、辞書をひく機会が減ったと思います。 ・大学入試で「情報」が問われる時代ですので、小学校でのプログラミング教育が楽しみです。 ・どちらも大切な要素なので、難しいと思いますが、バランスが大切だと思います。		
		②全ての教科における論理力・表現力・思考力の育成。	③国語の副教材による論理力・読解力の育成。算数での文章問題の活用。社会科の資料の作成・活用。理科での自分で考えてまとめる力の育成。 ④図書室、小学生新聞の利用。読書運動の推進。 ⑤アクティブラーニングの実施。 ⑥ICT・プログラミング教育の実施。	③評価項目に沿った各教科の試験作成。授業ノートやプリントのまとめ方。 ④積極的な図書室の利用や学級文庫の活用によって、読書量を増やす。(月5冊/人) ⑤授業や学級活動の中で発表や意見交換、書く機会を積極的に設ける。 ⑥iPadの積極的な活用。	③習熟度を確認できるテストを作成できたが、不十分な点も見られた。ノートやプリントで自分の考えを論理的に記述できるようになった。 ④感染予防のため、例年より使用制限されたが、朝の会の前や休み時間に図書室を利用する児童は多かった。 ⑤自分の意見・主張をもとに周りとの意見交換や発表を行った。 ⑥基本的な情報活用能力が身に付けた。	A B A B	③引き続き、学力向上につながる試験活用を努める。また、各教科の目指す目標と身に付けさせたい力を明確にした授業を展開する。 ④コロナ禍でも運用できるよう工夫した。今後も、図書室の利用方法を検討し、利用率を向上させたい。 ⑤iPad導入により、今までできなかったグループ活動ができた。 ⑥iPad使用のルール順守に課題がある。 ⑦話を理解する能力の向上に加え、姿勢を正すことに努める。			
2	・副校長が中心となって道徳の授業を行い、学校の教育方針等を理解させている。日常生活や行事を通して人間としての正しさ、命の尊さ、相手を思いやる優しさ等豊かな人間性を育んでいる。電車通学をする児童が多く、集団になると公共のマナーを守れない場合がある。	①心に届く道徳教育や実践・体験的な生活科・総合的な学習の時間の実施。感動体験や観察力がつく行事の推進	①道徳の授業や体験活動を通して、心の成長を図る。行事の事前学習・体験・評価・事後学習の徹底。 ②児童会活動の充実。	①感謝や思いやりの心を持った行動ができる。 ②主体的に活動できる児童を100%にする。	①コロナ禍の影響で実施できない行事が多くあったが、児童なりに考えて行動したり、感謝を伝えたりした。 ②主体的になるにはまだ時間がかかる。	B B	①思いやりに欠ける言動が見られることがあり、継続的に指導する。言葉だけではなく、気持ちを伝えられるようにする。 ②引き続き、チャレンジを励行する。	・コロナ禍で思ったような活動ができなかったと思いますが、行事に限らず、日常の色々な場面で感謝の気持ちを表せると良いと思います。 ・評価「B」は妥当だと思います。 ・PTA活動で来校すると、子どもたちとすれ違うたびに挨拶してくれます。「A」は妥当。 ・本当は体験が良いが、社会情勢等に合わせた様々な形で実施してもよいと思います。 ・一般の方からお褒めいただいたことを知らせて、自信を持たせてもよいのでは。		
		②自ら進んで挨拶のできる力を育てる。	③教員の「おはよう」指導の実施。	③相手に届く挨拶を進んでできる。	③感染予防に努めながら、挨拶を励行した。	A	③教員が率先して挨拶し、児童に対してわかりやすいお手本を示す。			
		③緊急時・災害時における安全確保の準備。	④防災訓練。防犯・安全の講演会実施。災害時対応マニュアルの決定。	④防犯と安全に注意して生活できる。	④災害時の対応について保護者に周知した。また、緊急メールを活用した。	A	④防災訓練や講演会を実施するとともに、オンラインでの講習も検討したい。			
3	・多くの児童が体育の授業や休み時間に体育館、屋外施設で意欲的に体を動かしている。チャイム着席等、基本的生活習慣に関わる「自立」ができる様全学年で取り組んでいる。	①体力の向上を図る。	①体力テストを実施・分析し、施設等を活用して、運動の習慣化を図る。	①休み時間に積極的に運動する児童を90%以上にする。	①使用できる施設を全学年で割り振り、感染予防に努めながら外遊びをしていた。	B	①ドッジボール・サッカー大会等を通して、運動に親しむ動機付けを行う。体育委員を中心に企画をしていく。	・図書室利用とのバランスが大切だと思うので、90%にこだわらなくてもよいのでは。 ・休み時間のiPad使用は、ない方がよいと思う。 ・評価「A」は妥当だと思います。		
		②学年に応じた「自立」を目指す。	②毎日の生活や宿泊行事を通し、自覚を持って自立していく志を育てる。	②年齢に応じた「自立」ができています。	②基本的生活習慣に関わる自立は、達成できている。	A	②家庭と連携して、自分達で考えて行動する機会を増やす。			
4	・保護者会や、説明会などの学校公開行事では、来校やオンラインで、多くの保護者にご参加いただき、地域の方の関心も高く協力的である。これからも、学校から情報を発信し、開かれた学校づくりを進める。特に保護者とは、教育活動を通じて連絡を密に取り、信頼関係の構築に努めている。	①地域に根ざす学校づくり。(星野学園小学校の信頼と伝統を築く)	①校外学習・行事を通し地域と関わる機会を設ける。	①学期毎、地域の専門家や施設と連携し、教育活動を行うことができています。	①感染症予防に努めながら、専門家をお招きして授業を行った。また、校外学習や体験授業を行うことができた。	①感染症予防に努めながら、専門家をお招きして授業を行った。また、校外学習や体験授業を行うことができた。	A	①引き続き地域の専門家や施設と関わる教育活動を充実させる。オンラインでの活動も検討したい。	・コロナ禍が落ち着き次第、田植えなどの貴重な体験が再開されると嬉しいです。 ・オンラインは時代に合っていると思います。 ・コロナ禍にもかかわらず、小中のつながりを意識した活動をやっていただいていたありがたいです。 ・オンラインでの保護者会は好評でした。 ・対面の保護者会の方が良いと思いますが、今の状況では厳しいので、例えば、「1学期は対面」のようにメリハリをつけたらどうでしょうか。 ・授業が家で見られることで、欠席しても、翌日の学習に対する不安がなくなりました。 ・小学校のWebページのお知らせ欄に、中学校や高校での出来事(部活動、表彰など)を載せても良いのではないのでしょうか。	
		②小中高の連携を推進する。	②行事等で、中学・高校の生徒や先生と積極的に交流する。小中高クラブ交流会の実施。ブリッジ講習、体験授業の実施。	②中学・高校の先生や生徒と触れ合う機会を増やす。	②コロナ禍の影響で交流の機会がなかったが、中学校への内部進学ブリッジ講習や体験授業を実施し、一貫教育へのつながりをつくることができた。	B	②小中高のつながりを大切にし、行事に活かす。コロナ禍でもできる中学・高校との交流方法を検討したい。			
		③子どもの様子を保護者に知らせる。	③保護者会や授業参観、二者・三者面談の実施。通信による情報の発信。連絡帳や電話連絡の積極的な活用。	③学校だより、学年・学級通信を月1回以上発行。連絡帳や電話でのやりとりを必要に応じて行う。	③学校だよりや保護者会で児童の様子を伝えられた。また、連絡帳や二者・三者面談で個別対応もできた。	B	③家庭が求めているものを見極め、配付物を充実させて、一層信頼が増すように努める。また、教育上の課題を協力して解決していく。			
		④学校情報の公開。	④ホームページによる情報の提供を行う。また、地域・保護者に文化祭や体育祭の一般公開を実施する。 ⑤星野学園小学校新聞を発行し、児童の様子を広く伝える。	④ホームページを積極的に更新する。文化祭で来場者が楽しめるよう、ステージ発表や展示の充実を図る。 ⑤星野学園小学校新聞を定期的に発行する。	④HPでは児童の授業の様子を毎日公開。コロナ禍として授業をライブ配信し、在宅での学習を支援した。 ⑤学校新聞を発行し、HPにも掲載した。	A A	④地域・保護者に学校教育への関心を更に持ってもらえるよう、今後も積極的に発信していく。 ⑤次年度も魅力的な新聞作りを継続していく。			